

第1回 教育再生懇談会 議事要旨

日 時：平成20年3月25日（火） 17：15～18：45

場 所：総理官邸大会議室

出席者：福田内閣総理大臣、町村官房長官、渡海文部科学大臣、大野官房副長官、岩城官房副長官、池坊文部科学副大臣、山谷総理大臣補佐官、有識者10名

（山谷総理大臣補佐官）

ただいまより、第1回教育再生懇談会を開催する。

教育再生懇談会開催の閣議決定では、「懇談会の座長は、互選により決定する」ということになっており、委員の皆様には座長の選出をお願いする。

（若月委員）

初等教育から大学教育まで幅広く関わっていらっしゃる安西先生に座長をお願いできればと思うが、いかがか。

○一同、異議なし

（安西座長）

それでは、私の方で議事を進行させていただく。

まず、会議の運営に関して、配布資料にあるとおり、会議の内容は、会議後に議事要旨、議事録等により公表することとしたいと思うが、よろしいか。

○一同、異議なし

（安西座長）

それでは、ここで、会議の開催に当たり、福田内閣総理大臣から御挨拶をいただきたい。

（福田内閣総理大臣）

今般、「教育再生懇談会」の委員をお願いしたところ、御多忙の中お引き受けいただき、御礼申し上げたい。また、野依委員、池田委員におかれては、教育再生会議に続き、本懇談会への参加を御快諾いただき、重ねて感謝申し上げます。

教育の第一線で御活躍の方々に多数御参加いただき、ありがたく思っている。

今国会の施政方針演説で、我が国が直面する様々な課題に対応していくに際

し、最も重要なのは「人」であると申し上げた。明日の日本を担う若者を育てる環境を作ることは大人の、社会の責任である。「自立して生きる力」と「共に生きる心」を育むため、学校のみならず、家庭、地域、行政が一体となって、教育の再生に取り組むことが重要である。

こうしたことから、教育再生会議に引き続き、内閣としてこの懇談会を開催することとしたものである。

この懇談会では、教育再生会議の提言のフォローアップを行うとともに、21世紀にふさわしい教育の在り方についての論議をお願いしたいと考えているが、この機会に、若干私の考えを申し述べたい。

第一に、子供たちが、勉学はじめ何事にも意欲的、主体的に取り組むための環境や教育の在り方について、御議論願いたい。

携帯電話を使いメールで意思疎通するなど、物があふれ、便利さを享受し過ぎている豊かな社会にあって、子供たちの教育には、環境的に困難な面があると考え。有害情報対策など子供たちを取り巻く環境の問題、ネット社会にあって、子供たちの考える力や他者とのコミュニケーションを行う力を養う教育の在り方、さらに、家庭教育、幼稚園、保育所を含め、就学前の幼児期の教育の在り方などについて御議論いただきたい。

第二に、大学全入時代にあって、各方面から学生の学力低下が危惧されている中、いかに若者の学力、能力を高め、国際的に通用する人材を育成していくかということが今、問われていると考える。大学全入時代における、高校教育、大学入試、更には、大学教育の在り方、また、我が国の国際競争力向上の観点から、留学生受入れの拡大や、英語教育の在り方などについても御議論いただきたい。

第三に、冒頭申し上げたように、教育再生会議の提言のフォローアップをお願いしたい。教育再生会議では、既に教育全般にわたって、4次にわたる貴重な報告をとりまとめていただいている。その成果が今後活かされるよう、この懇談会でフォローアップしていただくことが重要と考えている。

この懇談会での御議論も踏まえ、内閣として引き続き教育再生に真摯に取り組んでまいりたい。委員の皆様の貴重な御経験、高い御見識を活かし、実りある御議論を展開していただけるものと強く期待している。

御協力のほど、よろしくお願い申し上げたい。

(安西座長)

続きまして、町村官房長官、渡海文部科学大臣から御挨拶いただきたい。

(町村官房長官)

総理からの話に尽きると思う。総理のお話のような問題意識、また多様な先生方に御参加いただいているので、先生方からの御関心をお述べいただき、その中で興味ある重要なテーマを取り上げていただければと思う。

私は2回文部大臣を務めた経験があり、教育問題には一番関心を持っている。この懇談会の中で、先生方にいろいろと教えていただき、貴重な御意見をいただき、それを実際に政策の面でもできるものは早く実現をしていきたい。そのために最大限の力を尽くしていきたいと思っているのでよろしくお願いする。

(渡海文部科学大臣)

今日、参議院の文教科学委員会の所信質疑で、4人の議員に教育再生懇談会と中教審の違いについて聞かれた。それに対して私は次のように答えた。中教審はあらかじめ問題を設定し諮問をして、答申をいただくものであるが、懇談会はそうした枠にとらわれずに、大所高所からいろいろと御議論をいただくということが大きく違う。

教育は百人百様であり、いろいろな意見があって良いと思う。総理からも問題意識が述べられたが、委員の皆様の間で闊達な議論をいただき、貴重な御提言をいただければと思うのでよろしくお願いする。

学習指導要領の改訂をまもなく出す。それと初めての教育振興基本計画を作ろうとしている。いろいろ御意見を聞きながら、参考にさせていただき、がんばっていききたい。

(安西座長)

この教育再生懇談会を開いていただいた福田総理に深く感謝を申し上げる。教育は全国民が関心を持つ大きな問題で、子供達の問題、高等教育の問題、教育再生会議のフォローアップ、これらのことすべて大事な問題である。

教育は色々な意見があるが評論を超えて実現を図っていかなくてはいけない時期にきているが、教育の問題は、どれか一つを取り上げそれを達成すれば済むという問題ではない。地域の活性化や日本の活性化にも関連することである。

この懇談会のメンバーの皆様におかれては、チームワーク良く、前向きに検討し、実現できるものは実現していくように一緒に進めさせていただきたいのでよろしくお願いする。本日は第1回目でもあるので、委員の皆様方に自己紹介も兼ねて、順次、御発言いただきたい。

(赤田委員)

日本PTA全国協議会の全国一千万人会員を代表して参加させていただいたことを感謝する。子供に一番に責任のある保護者として、しっかりと子供達の将来に責任を持ってまいりたいと考えている。教育環境の問題に深く憂慮している。有害図書、携帯電話、インターネットの問題等々について、大人の責任として我々どうあるべきかしっかり議論していきたいと考えているのでよろしく願います。

(池田委員)

教育再生会議から引き続き参画させていただきありがたい。教育再生会議では提言のフォローアップを総理にお願いさせていただいたが、今日このような形で出発させていただき御礼申し上げたい。また、提言のフォローアップのみならず、更に問題点を掘り下げ、検討をすすめるということであり、委員の一人として大きな責任も負っていると感じている。

現在、私は東京商工会議所の副会頭を務めているが、昨日、東商の130周年記念式典があった。東商の初代会頭は渋沢栄一翁で、経済と道德の合一説を主張された方である。初心に戻る、という意味でも、経済と道德の合一を企業活動、地域作りの中で正面に据える必要あると感じさせられている。

道德については社会人になってから身につけるのでは遅すぎる。幼児教育から初等中等教育、高等教育に至るまで、学校教育の中に各々落とし込んで行く必要があると思う。また、特に幼児期の家庭内教育の重要性が実証されており、これをどのように共有していくかが問題である。今後、教育再生懇談会の中で更に詰めさせていただければありがたい。

(小川委員)

前の教育再生会議は教育の研究者がいなかったと言われていたようだが、今回は、教育について専門的な研究をしてきた者として、できる限り議論にはエビデンスベースを大切にしたいと思う。

教育再生会議で主要な問題の整理はされていると思う。あとはプライオリティをどう付けどういう手法で具体化していくかというところにあるかと思う。チェックリストには、具体的な実現方策が明らかなものも多いが、他方、例えば、学校の適正配置の推進など具体的な手法で抽象度の高いものもある。

私の専門は教員の質の向上や教育システムの改革のところであるが、この問題を考えるに当たっては、この10年間の地方分権の中で、行政や学校の実態がどうなっていくのかという検証を踏まえた上での議論が必要ではないか。例えば、チェックリストに校長への裁量・権限の拡大などあるが、フィールド調査によると学校レベルの改革はまだまだ進んでいない。

道州制を含めて、今後の国の分権改革の在り方とリンクした議論となる。この教育再生懇談会でどこまで踏み込んで議論できるか分からないが、その点も意識してやっていきたい。

少子化、子育て経費の負担増という中で、教育費の経費負担をどうするのかというのは、日本の幼児教育、私立学校含めて学校体系の在り方に関わる大きな問題ではないか。0歳から4年生大学を卒業させるまでの子育て経費というのは全て国公立の節約コースで約2,600万円（医科歯科系では4,000万円～5,000万円）かかる。普通のサラリーマンの生涯所得がだいたい3億円で、その中から税金や社会保障費、その他生活必要経費を除いた可処分所得が7千万円前後と試算されている。この可処分所得の中で何人の子どもを育てられるか、この数値から見れば少子化はやむを得ない状況だ。子育て経費の負担の在り方は、21世紀の早い時期に何らかの方向性を出すべき大きな問題である。

（木場委員）

私は母親の立場や、生活者の立場で参加したい。

その他に教育との関わりで言えば、地元の教育委員会に籍を置いている。

また千葉大学教育学部の教員養成課程で表現法についての講義をしている。コミュニケーションの重要性についても、私なりに意見を述べさせていただければと思っている。今、家庭の中でもコミュニケーションに課題があると思う。1つ例を挙げると、モニター症候群とかディスプレイ症候群という言い方をするが、家庭の中に家族4人が一緒に暮らしていてもお互いに目を見て向かい合って生活しているかということ、パソコンやテレビや携帯やゲームをそれぞれやっていて、向き合うことがないという部分は問題である。

メディアが人のコミュニケーションを妨げるようではいけない。携帯電話のフィルタリングをはじめ、文部科学省だけでは対応できず、各省庁にまたがっている案件は連携して子供達を救わなければいけない。是非強力に推し進めていただきたい。

大学で教えていて感じることは、臨機応変さ、自己表現能力、コミュニケーション能力のようなものは足りないと感じる。

教育は百人百様でいろいろ意見があり、テレビで拝見したところ、前身の会議では個人的に言ったことが会議の意見として扱われてしまい、親学なども本当はもっと違ったのだと思うが、国から子育てまで押しつけられたくないとかいうような形で随分変わって伝えられることが多かったのではないか。きちんと正しい情報が伝わるように、何かお役に立てればと考えている。

（篠原委員）

教育の課題はいくつかあると思うが、幼児教育、それに大学・大学院でエリートをどうやって作っていくか、この二つが私は重要であると思っている。

教育再生会議の打ち出した方向性は基本的に賛成である。もう少し踏み込んでほしかったのが幼児教育・家庭教育の部分。学校・地域ばかりに頼らず、親学の問題も含めて家庭教育の在り方にもっと切り込むべきだと思う。徳育、親学というどうしても抵抗感があるのだろうが、今の若いお母さん、お父さんが必ずしも身に付いていない部分をどうやって世の中でカバーしていくか、大事なポイントだ。カタールなどでは「自国の子供に日本のしつけ教育を施したい」との動きもあるようで、日本のしつけ教育というのはまだまだ捨てたものではないと思う。

その意味で、全国1,300万人の専業主婦の役割はもっと評価されても良いのではないかと、すぐにワーク・ライフ・バランスという話になるが、専業主婦は孤独感を持っており、朝から晩まで子供に向き合っており、育児ノイローゼも多いと聞く。こういう人達をエンカレッジして育児ノイローゼから解放する、これが家庭教育、幼児教育の1つの大事な柱になると思っている。少子化対策にもつながる話である。

国際化は非常に大事だと思うが国内のことを良く知った上で国際人にならないと、単に語学ができるというのではいけない。

(菅原委員)

立川市立第九小学校で教員をしており、特別支援学級で、障害のある子供の担任もしている。本校でも今日卒業式を終えてきた。障害のある子供達もお友達の中に入って、一緒に巣立っていった。校内の先生方、地域の皆さん、介助して下さる先生方に支えていただき、生徒達が満足感一杯に、自信を持って巣立っていったのを見ると、改めて教育というのは、人と人のつながり、心と心のつながりが大事だと感じた。

文科省の調査によると、発達障害のお子さんが通常の学級にも6.3%いると言われており、40人クラスなら3人、4人、多いところで5人いることになる。LD、ADHD、高機能自閉症などである。そういう子供さんを抱えながら先生方は授業していかななくてはならない。しかし研修する暇はない。非常に難しい状態である。そういう中で学級崩壊になるケースもある。そういう子にどう対応すればいいのか、そういう子を抱えながらどう授業を作っていくか、常駐で専門的、具体的にアドバイスしてくれる方が求められている。

団塊の先生方が退職を迎えて若手がどんどん入ってきている。うちも25人いるが半数は経験が5年未満となっている。現場は危機感を持って若手教員の育成に取り組んでいるが、教育学部の大学の先生方をお願いしたいことは、明日

から現場で使える指導技術を教えて欲しいということ。現場の研修の在り方も、今までは座学中心であったが、教室で具体的で実践的に使えるような研修に変えていく転換期に来ていると感じている。人間力という言葉が現場で使われるようになってきているが、人間と人間の部分を若い先生方にも分かって欲しい。子供の心の痛みが分からなくては教育はできない。

(田村委員)

この懇談会を教育関係者は喜んでいる。教育基本法も改正が行われ、教育振興基本計画がまもなく具体化される、教育再生懇談会は良いタイミングではないかと思う。

若者の国際性ということで、総理がすでに留学生30万人計画を提言されているが、ヨーロッパではソクラテス計画や前のエラスムス計画があるが、そのアジア版をやっていただけでないか。学生だけでなく教員も一緒に行く。エラスムス計画が効果を上げたのは学生と教員と両方をやったことである。長期でなくて短期でやった。半年とか1年でいいわけである。授業も日本語ではなく英語でやるという原則でやれば何十万単位で交流ができる。向こうから来る分は向こうに費用を持たせる。こういうことでやれば日本の学生もアジアを通して世界に目が開ける。

野沢こども園を昨年4月に開園した。1年間やってみてつくづく思ったのが、いろんな意味で整備していただく必要があるということ。子育てをするため窓口をどこか1箇所にして欲しいという親の希望が強い。例えば幼稚園と保育園は一緒になっているのでそれは両方できるが、ベビーシッターをとということだとこども園は窓口になれない。子育てに必要なことがまとまっていれば使う側には便利である。今文科省、厚労省2つの省に分かれているので具合が悪いことが一杯ある。0歳、1歳はできるだけ親が見た方が良いが、2歳からは預けようと思ったら預けられるような体制を日本の国として用意する、これは就学前教育につながる。子供庁ができれば一番良い。

(野依委員)

教育再生会議は1年4ヶ月で4つの報告をまとめた。高等教育が専門であるが、全体的に最も強調したいのは、教育をする側の論理ではなくて、子供、若者一人一人の立場に立って教育するという事。しっかりとした基礎学力と規範意識は不可欠である。人々の能力も将来の目標も多様になっているが、現状では古い体質の教育体制が、激変する社会の要請と乖離している。履修主義、推薦入試の名による高校生の青田買い、大学院の学部学生の囲い込み、こういったことが顕著である。教育される若者ではなく大学、学校、教員の都合で色々

な議論がなされてきた。

しかし、今日の教育問題の解決は、学校、教員のみには押しつけてはいけない問題である。家庭教育がなによりも大事。さらに、あらゆるセクターが教育の当事者としての自覚を忘れ、非教育的でさえある。その結果、国際、学際、社会際という「際」に非常に大きな歪みが生じており、教育のプロとして任務を全うすべき先生方が、それらの対応に追われ忙殺されている状況がある。教育の再生には社会総がかりということが是非必要である。

教育現場に求められることは、マネジメントの確立であると思う。社会との接点に関わる業務は、先生方に転嫁するのではなく、教育委員会、大学の経営組織が全うすべきで、各主体の責任と権限を明確にして、開かれたマネジメント体制への格段の強化が必要である。そして、先生方を本来の教育に専念できる環境に戻すことが先決だろうと思っている。

莫大なエネルギーが投入された教育再生会議の議論は、社会一般の教育に対する強い期待と厳しい見方の反映のように受け止めている。天然資源が乏しい日本が生きるための道は厳しい。日本の将来は優れた人材の育成にかかっている。日本の教育は世界水準を遙かに超えたものでなければいけない。教育再生は何よりも実行が大事だろう。教育再生会議が提言してきたことを是非実現していただき、推進していただくことが大事だろうと思っている。私も引き続き努力をさせていただきたい。

(若月委員)

品川区では構造改革特区の制度に手を挙げて小中一貫教育をやっている。施設一体型の小中一貫校を2校立ち上げ、3校目を立ち上げることになっている。

徳育、生活習慣、規範意識などいろいろな意見が出ているが、このことについて具体的な現場の先生方の道德教育に対する取組、とまどい、自信のなさといった具体的な例を紹介して、目的を実現できるようにがんばっていききたい。

学力の向上については、日本の国の将来を考えたときに、科学技術立国で行くんだといったビジョンが必要ではないか。日本を支えていく科学技術の人材育成といったことも、学力の向上の中で明確に出していけたら良いと思う。なぜエリート教育といったものをこうも批判されるのか、この国の財産は人だから、スペシャリストを作っていかなくは立ちゆかないのである。義務教育、高等教育等々において失ってはいけない視点である。

幼児教育、家庭教育の大切さは世間でも感じている。大事であるが行政の立場で一番アプローチしにくいのが家庭教育であろう。

親御さんはある意味でがんばっていると思う、日本社会の雇用形態の問題な

のか、家庭教育を大事に思っている、仕事にプライオリティを奪われるという現実がある。家庭教育、幼児教育の充実には、親の参加を抜きには考えられないが、それを考えたときには教育という世界の中だけでは語れないのではないか。行政の子育て支援も、できるところまではやっているが、これ以上やるとあたかも社会主義国家かと思うぐらい要求が広がっていくかも知れないが日本の構造そのものに手を加えていく、そんなことも懇談会の中で機会があればお話をさせていただきたい。

今のままで良いとは思わないが、それでも日本の教員は、世間が言うほど頼りなくはない。そんな意味で先生方の大きな応援団に、この懇談会がなればと願っている。

(福田内閣総理大臣)

教育というのは、誰でも話せる、非常に話しやすいテーマであり、私も専門家ではないので、体験から話をすることが多い。昔の教育と今の教育はだいぶ違う。戦後は物が無い時代で、教科書も回し読み、大事に扱った。また先生に一日小説本を読んでもらったりして、人間と人間のふれあいを感じた。小さいときの教育では授業以外も大事であり、読み書きだけではいけない。

今の先生の質が悪いとか言うが、生徒は先生を信じていくものではないか。発達障害の方が6%もいると言われたが、一人一人を大事に扱わないといけなかったのが今の先生であり大変だとも思う。そういうような先生を守るということも必要ではないか。守りながら先生自身も良くなっていく。批判していても良くなるばかりではないはず。

教育のモットーとしては、やはり人である。日本は人で持っている。このことは今後も忘れることはできない。ただ、倫理性の高い人を育てなければいけない。せっかく得た知識を悪用するような人を育てることはできない。そのためには社会がしっかりしてなければいけない。社会を構成する家庭もしっかりしなくてはならない。

家庭にもいろいろ問題があり、教室の子供よりもお母さん達を教えたいと思っている先生が多いという話も聞く。社会全体が良くなって、初めて子供の良い教育も安心して受けさせることができるということではないか。

日本が将来世界に羽ばたくためには、国際語も十分駆使できる人材を養成しなくてはならない。日本語と同じように国際語である英語をしっかりと身につけることが将来の子供が羽ばたくチャンスを与えることである。

(渡海文部科学大臣)

与える側の論理ではなく受ける側の論理でというのは、福田総理が消費者

目線とおっしゃっているのと通じることだと思う。今までの文教政策は与える側に目を奪われていたのかなという思いで聞かせてもらった。そういった目線が大事だと改めて気づかせてもらった。

少子化と教育投資、OECDと比べてどうだと言っているもいかがか。家計負担でどの程度までが許容できて、それが足りないとしたら国は何をするのか。国際比較の前に日本の教育の水準をどの水準までにするのか、最低でもここまでもっていかないといけないという議論があってしかるべきである。それで考えたときに教育投資というものをどう考えていくのか、ただ単にお金を増やせばというものでもないが、厳しい財政の中でどういう考えをしていったら良いか悩んでいる。そういったことについてもいろいろな御意見をいただければありがたい。海外との単なる比較ではなく、我が国の在り方といったものもあっていいと思う。

(町村官房長官)

学校の実態、子供の実態をよく見て考えなければいけないというのはそのとおりである。ややもすれば教育論は観念的になりがちである。現場がどうなんだという、それから出発しなくてはいけない。

奇しくも多くの方々が家庭教育、幼児教育について強く認識されており心強く思っている。私が文部大臣のとき家庭教育について何かできないかと考え家庭教育手帳というものを作った。中身はそんなの当たり前だよということ、例えば、朝ご飯は家族で食べようとか、そんなこと言われなくても分かっているとみんなから言われるようなことだったが、家庭教育に少し政策的なことをやったのはあれが最初だったと思う。そこから先どんどん行くとプライバシーとかなかなか難しい。でもこれだけ皆様が危機感を持っているのだから何か新しい家庭教育の知恵がこの場から生まれて来て欲しいと思った。

提言はすでにいろいろ出されている、教育再生会議も、教育改革国民会議も、中央教育審議会等々の提言もある。あとはそれをどう実行していくかということである。全部一度にはできないかもしれないが、是非これをやろうというような話があれば、教育再生会議の中でも実行に移されたことは数多くあるのだから、是非というのを言うだけであれば、それを実現していくのが大切である。

最後に、先ほど「こども園」という話が出たが、私は「子供庁」というのを十数年言い続けてきた。これもそう簡単にできるとは思わないが、大切な論点であろうと改めて思った。

(安西座長)

ありがとうございました。本日いただいた御意見も踏まえて、今後の懇談会を進めてまいりたい。

(山谷総理大臣補佐官)

次回は、教育再生会議報告のフォローアップと、本日の御意見を踏まえた個別のテーマについて、御検討いただいてはいかがかと考えている。

また、教育再生会議のフォローアップのために、教育現場の視察も今後実施したいと考えているので、御協力をよろしく願います。

(安西座長)

それでは、本日の教育再生懇談会は閉会とさせていただきます。